山形市立滝山小学校　　5年

こんにゃくいも栽培・こんにゃく作り

取り組みの内容

（１）活動のテーマ

『卒業するまでに，こんにゃく芋を育てよう』（総合的な学習の時間）

ねらい　栽培活動を通して，食物を育てることの大切さや大変さを体験させたり，自分たちが育てたもので食材を作り、食することによって、食物を大事にし，感謝する心を育てる。

（２）活動の動機

３年生の時に，総合的な学習として大豆を育て，豆腐づくりに取り組んできた。

本校は，学区に西蔵王のこんにゃく畑があり，「千歳山こんにゃく」という有名な食品を有する地区である。子どもたちにとってこんにゃくは，日常的なものでありながら未知の産物である。また，３年かかって育つということから，４年生から卒業するまで継続して育て，卒業時に収穫の喜びを味わいたいという願いを持って意欲的に取り組むことができる題材だった。

（３）実践した学年

５年生　　４学級　　１１９名

（４）実施体制

植える場所は，学校園だけでなく，地域の方に協力していただいて，グランド側の休耕田をお借りした。

土づくりについては，学校の保護者（農家の方），技能技師の協力を得て，こんにゃくに適した土づくりをした。

こんにゃく芋は，食と緑の交流プラザの方から手に入れていただいたもの使用。

（５）協力を得た機関

食と緑の交流プラザ，滝山農協，農業試験場，村山合同庁舎

（６）活動の内容

① こんにゃく芋の入手	一昨年５月
② 土づくり	５月
③ こんにゃく芋植え	６月上旬
草取り，消毒	７・８月
④ 収穫	１１月上旬
⑤ 乾燥	１１月
⑥ 囲って保存	１２月

（７）問題を解決する課程を大切にした取り組み

昨年，休耕田に植えたこんにゃくが全滅してしまった。子どもたちは，来年も再来年もこんにゃく芋を育てるので，何が悪かったのか，原因をしっかり調べたいということになった。そこで，原因を探るために，子どもたちが県庁の農林水産部に電話して話を聞いた。その結果，詳しい分析は農業試験場がいいだろうとアドバイスを受けた。早速，農業試験場に電話したところ，土のＰＨについては，滝山農協で調べてもらって，ＰＨに問題がなければ，村山合同庁舎に土を持って行くと詳しく原因を探ってもらえると言うことだった。そこで，村山合同庁舎に土を持って行って，現在分析をしてもらった。その結果カリウムとリン酸が足りなかったことが判明。今年度はカリウムとリン酸を補充する土作りから始めた。その結果，こんにゃく芋の生長も良く，こんにゃく作りまでするこができた。子どもたちは，自分達が２年間育てた芋でつくったこんにゃくを食するときの感動は格別な物だったようだ。

（８）開始年度　　平成１８年度

取り組みの効果

子どもたちは，食物を育てる大変さを体験し，作ることに思わぬ失敗を体験することで，作物のいのちや食べ物の大切を感じることができた。日頃何気なく食べている食物が，様々な工程を経て，様々な人たちの苦労によって食卓に届けられていることを学ぶことが出来た。

特に，失敗したことについては，その原因を探って，調べよう，そして同じ失敗をしないようにしたいという気持ちで取り組むようになり，作物への新たな（いのちとしての）アプローチも生まれた。

今後の取り組み

来年もこんにゃくいもを植え、再度こんにゃく作りに挑戦し、学年で試食したり、下級生にごちそうしたりして、収穫の喜びを体感したり、卒業前の感謝の気持ちを表したい。